

人の手は笑ふも成る者
殺すための鎌も成る



神学校だより

JAPAN BAPTIST BIBLE COLLEGE
日本バプテスト聖書神学校

Contents 1

校長の机から

石川 実

授業紹介

上田 晃

冬期講座

張替 愛

西牟田 恵理也

Contents 2

伝道実習

市村 雄治

堀口 和基

井垣 勇基

齋藤 光彦

神学校の思い出

上田 廣行

校長の机から

神学校教育の
継承と改革

校長 石川 実
調布聖書バプテスト
教会 牧師



「私は主から受けたことを、あなたがたに伝えました。すなわち、主イエスは渡される夜、パンを取り、・・・」

(第一コリント 11 : 23)

「朝には『朝焼けでどんよりしているから、今日は荒れ模様だ』と言います。空模様を見分けることを知っていながら、時のしるしを見分けることはできないのですか。」

(マタイ 16 : 3)

今年の夏、日本バプテスト・バイブル・フェローシップは全国聖会を開催します。このとき、70周年記念式典が主に献げられます。テーマは「主がおいでになる日まで」です。世の終わりが近いのではないかということは、クリスチャンでない方もひしひしと感じているようです。私の母校は理工系の学校ですが、前学長が新しい概念の科学研究会を立ち上げられました。その設立趣旨書に次のように書かれています。「地球という自然を舞台にした人類が繰り広げて来たパフォーマンス

スは、長く、舞台の設営者でもあった“神”の演出のもとにあった。しかしいつしか演者は力をつけ、演出者を忘れ、あまつさえ、畏れの感情なく舞台に手をつけるようになった。いまや舞台は、演者が思うがままに振る舞う、混沌とした修羅場と化してしまった。」

科学者が危機感を強く感じる時代、神学に携わる者たちが時のしるしを見分けていないとすれば、主は次のように言われているでしょう。「怠け者よ。いつまで寝ているのか。いつ目を覚まして起きあがるのか。」(箴言 6 : 9) 聖書の解釈は一つで時代によって変わりませんが、適用は時代によって改革がなされていかなければならないでしょう。

変化する状況を考えるためにまず大切なことは、逆に不変な状態を基準にしっかりと据えて置かなければなりません。私たちの座標原点は、冒頭のお言葉でいわれているように、「主から受けたこと」であり、その中心は「パンを取り」とあるように、主の晩餐で記念されているイエス様の十字架です。イエス様の十字架と復活が私のためであったことを信じてことによって、罪が赦されるという福音を中心として、聖書全体から学ぶことが私たちの教育の本質です。これを、混じり気がないように純粹に保っていかなければなりません。また、中心でないものも、重要だからというので教えます。しかし、いつしか、その

ことが中心と置き換わっては大変なことになります。

聖書全部を伝えることはできませんから体系を作ります。大事なことを教えていると先生は学生に言うわけです。大事かどうかの区別は誰がするかというと、先生方です。学生はそれに従って勉強するので、とても能率よく聖書知識を習得することができるのです。

しかし、考えなければならないことは、他の学問と違い、私たちの真理の探究は、聖霊の働きのもとで行われなければ、本当の意味が分からないのです。このことを無視して、たとえば、エペソ書1：4のお言葉「すなわち神は、世界の基が据えられる前から、この方であって私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです。」をある人が自分に当てはめると、どういった問題が生じるでしょうか。この人が、このお言葉から自分は選ばれていると確信したとします。ただし、彼は悔い改めてはいませんでした。そうすると、救われていないのに、救われていると誤解することとなります。実はこれがサタンの巧妙な罠です。

神学校教育は、神学を教えると同時に、学生が正しく適用できるように、一人ひとりに聖霊が働くような人格（キリストの形、ガラテヤ4：19）を形成していかなければなり

ません。そのような人格となるためには、砕かれなければなりません。学生たちの我が砕かれていくことを中心として教育に携わらせていただきました。また、私自身が主から我を砕いていただくことを重要であると祈りつつ校長職を務めましたが、不十分であったことをお詫び申し上げます。これまで、6年に亘って忍耐して下さった、諸教会の先生方を初め信徒の方々に感謝を申し上げます。また、副校長として働いて下さった上山要先生をはじめ、教師お一人ひとりの目に見えない多大な助けに、主が報いて下さることを確信しています。

神学校のモットーは、"ENTER TO LEARN, GO FORTH TO SERVE" 「学ぶために入り、仕えるために出て行く」です。そのために、これから、特に必要となっていくことは、時代をしっかりと見るという改革です。

9月からは1年間、金沢教会牧師の斉藤秀文先生が校長職を勤めて下さいます。来年のJBBF年次総会で3年任期の校長が推薦されることとなります。神学校教育の継承と改革が、自動車の両輪のように正しく回転して、これからもまっすぐに、天におられるイエス様に向かって進んでいくことをお祈り申し上げます。これまで、ありがとうございました。また、これからも神学校をよろしく願います。

授業紹介 個人伝道学

個人伝道学担当

上田 あきら 晃

名古屋聖書バプテスト
教会 国内宣教師



人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。ルカの福音書 19：8

主イエス様の福音を、お伝えする伝道方法には様々な形があります。最も代表的なかたちは、地方教会が行っている講壇から語られる福音伝道集会でしょう。そこには、新しい来会者に来ていただくため教会員や伝道者が友人や家族、知人、職場の人に声かけをして、教会の集会にお誘いし、お連れする事が絶えず求められます。クリスチャンではない、来会者をおさそいし集会に参加いただくことによって、神のことばである主の福音を聞いていただく事が出来るのです。聞いてくださる人がおられて伝道集会の目的の一部が果たせることとなります。

メッセージの結びには、必ずと言っても過言でないほどに、「神に対してこれまでの不信仰を悔い改め、救い主イエスキリストを信じ受け入れる様に。」と招きが有ります。私も始めて教会に行った夜、招きがあり、「信じる人は手を挙げてください。」と言われ、

何も分からないままに手を挙げました。集会が終わったあと逃げるようにして、教会堂を跡にしました。私の場合、知り合いの誘いで、初めて教会の門をくぐりました。帰り間際「また来てくださいね。」と何人かの方が声をかけて下さいましたので内心嬉しく思いました。その後、幸いにも主の憐れみによって、継続して行くようになりましたが、私に、個人的に福音を話して下さる方は一人もおられませんでした。

招きに、こたえて手を挙げるだけで救われるわけではありません。始めて教会に来られた人にとっては、分からないことだらけです。それ故、個人的に、新しくこられた方には、声かけをして、説教者の説教内容にふれながら、みことばを、かみ砕いて分かるようにお話しすることが大切です。ペテロが勧めているように、「キリストを主とあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、誰にでもいつでも弁明できる用意をしていなさい。・・・優しく、慎み畏れて、また正しい良心をもって弁明しなさい。」 | ペテロの手紙 3：13 に有るとおりです。時にはお相手の方が話されるのを聞くことも大切です。上から目線ではなくへりくだって、御言葉の取り次ぎをすることを心がける必要があります。

主イエス様は個人にも、おことばをかけられ、福音の真理を語られました。ペテロに、ナタナエルに、ことばをかけられました。サマリヤの婦人には、「私がキリストである」

と、ご自身を証されました。ニコデモには、新しく生まれないと神の国は見えない真理を証されました。

アクラとプリスキラ夫婦は、エペソにおいて、聖書に精通しているアポロに、更に詳しく、正しくイエス・キリストを教え、証しました。ピリポは聖霊によって遣わされ、ガザに帰る道を進む、エチオピアの高官に、イザヤ書からイエス・キリストをあかしし、信仰を確認しバプテスマを受けました。種々の伝道の帰結するところは、個人的に福音を伝道し聖霊のお働きを期待して神に対して悔い改めを勧めること、そしてイエス・キリストを主と信じ受け容れて信仰を告白するように祈り導くことです。(使徒の働き 20 : 21)

私が時々悔しく思うのは説教だけ聞いて、まねきにもこたえず帰ってしまわれる新来会者がおられることです。主が教会に送って下さったのに、ことばかけをしないためにそれきりになってしまわれるのです。イエス様はそれらの方々のためにも贖いを十字架上で成就してくださっているのです。それは、筈(ざる)から水がもれるのに似ています。成長する教会は個人伝道が出来る働き人がどれほど教会員の中におられるかがおおきな鍵と某伝道者が語っておられました。皆さんに今個人伝道法の講義をしておりますが、皆さんが個人伝道をなさることは当然ですが、皆さんが用いられて、個人伝道の出来る働き人を、牧師先生や教会員の御理解と祈りの支援の中で個人伝道者を育成していく使命もあるのです。

福音を信じなければ人は滅びる事を念頭に、チャンスがあれば伝道しようとするスピリットを持ち、聖霊の助けをいただかれて、みことばの奉仕を続けていただきたいのです。Ⅱテモテ 2 : 2 に「多くの証人の前で私から聞いたことを他の人にも教える力のある忠実な人に委ねなさい。」とあります。

私が歯ざしりをするほど悔しいのは、以前のある時期、超教派による教会合同の〇〇クルセードなる大衆伝道が各地で開催され派手な集会が行われておりました。私は一線を画してこれらの、いずれの集会にも参加しませんでした。人ごとでは済まされない、ほぞをかむ悔しさが残っております。その都度、何千人集まった。何万人集まったとか、誇らしげな報告がされておりましたが、その中には、まだイエス様を信じておられない参加者も大勢おられたのです。祭り騒ぎのような集会の雰囲気の中で訳も分からずに招きに応じて手を挙げた人も大勢おられたと想像されます。新来会者の殆どは、教会に行くこともなく、いつの間にか超教派による大衆伝道は終焉を迎えました。一番の失敗は招きに応じて手を挙げただけの数を見て何人が救われたと評価されたことでした。これらの人々に、福音にもとづく救霊する個人伝道が十分に為されていなかった事です。まことの神に対し悔い改めて、主イエスキリストの福音を信じるべき、多くの人の霊性が宙ぶらりん状態におかれていたことです。

某異端宗教のリーダーが、ある日私に言い

ました。「キリスト教会が超教派の大衆伝道で種まきをしてくれたお陰で、私たちが刈り取りをさせていただきました。」主イエス・キリストをお迎えするように導けなかった為、空きや家に七つの悪霊どもが住み着いて、以前よりもわるい霊的狀態に多くの人々が陥りこれらの偽宗教異端の奴隷とされてしまったのです。個人伝道を怠った多くの教会が今、辛酸をなめているのです。

私たちJBBFの諸教会においては、前掲の超教派による大衆伝道とは、セパレートしてきましたが、伝統的に？独自の特別伝道集会を少なくとも一年に二回は開催していると思われます。しかし近年、新たに教会の集會に出席する人が減少していると思われます。それでも全世界の富よりも重い魂を失っている方々が来られたときには、愛をもって、個人伝道のことばかりをばかきをして下さい。個人伝道には王道は有りませんがみことばを用いて、神、罪、救い、聖書、教会については必ず話す必要があります。

神についての証し

人の創造を含めた万物の創造主。三位一体にして唯一の本姓をお持ちの御存在。他に神はない。創世記1章～3章 他に救い主はおられない。1テモテ2：5

人間について

人間は神によって神のかたちに創造されたが、蛇（悪魔）の誘惑に負けて神に対して罪

を犯し、人と人との関係においても罪を犯す存在になってしまったこと。神の元を離れ、神にとって失われた存在になってしまったこと。そればかりか、自分たちで神仏をつくり偶像礼拝や死者礼拝をおこない更に大きな罪を犯し、道徳的にも墮落し、人関係が壊れてしまい、不道徳の奴隷となって居ること。その状態が神の裁きを受けているに等しくその終わりは永遠の滅亡であること。ローマ3：23

救い

神は愛であり、聖なる御存在で昔から預言者を遣わされ様々の方法で、人類の救いを計画され実行されたが、人間は心かたくなにして神の御心に逆らい自ら滅びを招いたことも経験しました。しかし。時が満ちて、神の第二位格で有らせられる神の御子を世に遣わされマリヤの胎に宿らせ、大工ヨセフに御子を託され、30歳になられたとき、御自分が神の子であることを世に明らかにされた。その名はイエス・キリスト。「世の罪を取り除く神の子羊」として紹介されました。彼は罪を犯さずその口に偽りがなく御在世中、天の御国の福音をのべつたえ、力あるわざを示されて、世の人に愛に基づくメシヤとしての徴を行われました。弟子達を極みまでも愛し、罪なきお体を十字架にささげられました。これはすべての人の贖いのためであり、私たち罪ある者に代わって罪の刑罰を受けられたのです。

重ねて言います。イエスの十字架は、イスラエル人をはじめ世界万民に対する罪のさばきを引き受けられたのです。不信仰、不実の罪を悔い改めて、イエス・キリストを主とも救い主とも信じる時、神はその人の信仰によって罪を赦し、イエス・キリストの血がすべての罪をきよめてくださり救いをいただくのです。その恵みは豊かで、恵みに満ちあふれる人生がキリストによって保証されるのです。キリストは死んで三日目の朝よみがえり御自分が生きていることを明らかにされました。キリストは永遠の命の君であられ、信じる者に永遠の命を与えられます。今は天に挙げられ、神の右に着座され、今も生きて執り成しのつとめをしておられます。イエス・キリストはいずれかの日、再びこの世界にお帰りになります。キリスト者はこの日を一日千秋の思いで待ちこがれています。

誰でも神に対して罪を悔い改めイエス・キリストを主と信じ、信仰を告白するとき神はその人を救われるのです。これは永遠の日からの神の定め救いのご計画によるのです。

以下キリストの生涯の主な出来事

主にマタイ伝参照

ことばとしての神 ヨハネ 1：1 創造主である神のひとり子 ヨハネ 3：16 マリヤの胎を宿とし処女降誕されたお方 マタイ 1：18

大工ヨセフの子と称されていた マルコ 6：2～ ヨハネよりバプテスマを受けられる

マタイ 3：13～ ガリラヤでの活動 マタイ 4：13

弟子を召し出される マタイ 4：18 山上説教 マタイ 5～7章 12弟子を選ばれる マタイ 10章 5千人のパンの奇跡 マタイ 14章

あなたは生ける神の御子 死と復活の預言 マタイ 16章 変貌 再び死と復活予言 マタイ 17章 ラザロの復活 ヨハネ 11章 最後の晚餐 マタイ 26章 無謀な裁判と十字架刑 マタイ 27章 キリスト復活 大命令と昇天 マタイ 28章 使徒 1章

誰が個人伝道が出来るか

キリストによって新生した聖徒たち ヨハネ 3章 新しく生まれなければ神の国も神の救いのご計画も救いにいたる道も分からない、新生した者だけが神の国と神の義が理解でき、救いの恵みの豊かさやキリスト者の人生のすばらしさが信仰と聖霊の導きによって理解できるのです。また 主イエスキリストのお言葉にもとづく、来るべき世についても正しい知識を持つことがゆるされ再臨の約束を待つ身とされている。来るべき神の国の希望があるのです。



参考文献

聖書を学ぶ個人伝道 豊かな人生の4つの法則 ロマ書からの個人伝道 トーレーの個人伝道法 さあ個人伝道に出かけよう 等

冬期講座

2019年1月29日30日

冬期講座概略

ワーカーズ1年課程1年

張替 愛

横浜BBC



主の御名を賛美いたします。

今年度の冬期講座におきまして、バイブル・バプテスト北国分キリスト教会の白根喜代志先生から、「日本バプテスト・バイブル・フェローシップ（JBBF）信仰箇条」についての講義を伺えましたことを主に心より感謝申し上げます。白根先生は、「JBBF信仰箇条」成立に携わられた先生のお一人で、そのような先生から直接お話を伺えたことは、大変意義深く、貴重なひとときでした。体調の優れない中、大きな犠牲を払ってお教えくださった白根先生に、この紙面をお借りして、改めて心より感謝申し上げます。

以下に、当講座の概略を列挙させていただきます。

1. JBBF信仰箇条の概要と関連事項

①「序文」について

マタイの福音書16章18節のペテロの信仰告白を例に、この時ペテロ自身は本当の意味でどのくらい分かっていたのだろうかというところから、白根先生ご自身も「歴代の教会が培ってきたこの信仰をどれほど理解できる

だろうか。たとえ今十分に理解できなくても後代に継承していく必要がある」と感じられて、この働きに携わられたと伺った。『信仰の先輩たちが長い歴史の中で引き継いできたもの』『歴代のバプテストの信仰告白が、聖書の中からはたずね出した宝を、今ここに』という言葉に、その信仰や思いが表されている。

②バプテストについて

バプテストの起源については諸説あり、極めて多元的な起源と考えることができる。

③信条とは何か

一目瞭然に救いが分かるように表す旗印。キリスト教の福音を言葉で公に表したもの。

④バイブル・バプテスト北国分キリスト教会信仰箇条の紹介

JBBF信仰箇条はあくまでもJBBFとしての信条を表したものであり、各教会にも信仰箇条なるものがあって然るべき。

2. JBBF信仰箇条の成立の経緯

当時の議事録や報告資料を基にお話くださった。

1973年度総会において、JBBF信仰箇条成立に向けての提案がなされ、検討が始まった。その後、1977年度フェローシップ総会において信仰箇条が採用された。

3. 各共同信条の紹介と比較

使徒信条/ニケア信条/カルケドン信条/アナシオス信条

4. バプテストの信仰告白

①バプテスト信仰告白の歴史

1611年オランダに居留していた英国人トマス・ヘルギスによる信仰宣言が、最初のバプテスト信仰告白と言われている。(1610年、メノナイト教会と合併したジョン・スマイスによる信仰簡条がバプテストの最初の信条と言われることもあるが。)

②第二ロンドン信仰告白とウエストミンスター信仰告白の比較



冬期講座の証し

4年課程2年

西牟田 恵理也

亀岡BBC

冬季講座に出席できたことを感謝いたします。また、本講座の講義の為、多くの準備と時間を捧げて講師をしてくださった白根喜代志師に、心から感謝いたします。

今回の講義では、JBBFの信仰簡条をテーマに、その成立の経緯や、「JBBF」の信仰簡条を作成するためにご留意されたことなどについてお聞きすることが出来ました。

信仰簡条の講義にあたり、まず、そもそも「信条」とは何なのか。また、バプテストの立場で信仰簡条を考えるために、「バプテスト」の字義的な意味や、その起源がどこにあるのかなどについても、世界、また日本の歴史観から客観的に説明をしてくださいました。

同じ「聖書を土台とする。」という立場か

らみ言葉を理解しても、実際には教派や団体によって、その理解の幅が様々であること、(例えば、聖職における女性の立場や、未婚の男性の牧師任職など)その背景には、解釈の方法の違いがあること(み言葉のある箇所だけ拾ってきて、文字通り読むか。文脈や聖書全体から読むかなどで異なってくる)などについても、前提として、わかりやすく教えてくださいました。

また、そのような中で、今日のバプテストが、良くない意味でのBiblicism: ビブリズム(解釈を除いた、適当でない証明聖句による理解)に傾倒している部分があることへの危険についても言及されていました。先生の仰っていた「聖書を読むときに、全くまっさらな状態で読むことは出来ない。今まで知らずの内に培ってきた価値観・概念・単語に対する定義・前提の知識で聖書を読んでいる。私たちは生まれながらの理性ではなく、再生された理性で、み言葉を示される必要がある。」という内容が、今の私にとっても、心にとめてみ言葉を学ぶ必要があると教えられました。

JBBFの諸教会を主が建ててくださり、多くの召された先生方がお任せされ、兄弟が集まっていること。そして諸教会が「教理的一致」「セパレーションの原則」という枠組みの中で、多くの先生方の祈りと犠牲として、同じ信仰簡条に立ち、同じ主を見上げて協力し合う交わりが持たれている事に感謝いたします。ありがとうございました。

2018年度後期伝道実習

2019年4月23日～28日

実行委員長挨拶

4年課程3年

市村 雄治

上田BBC



主の御名を心より誉めたたえます。

今回、学生を受け入れて下さり、学びのために労ってくださった石川安義先生、恵先生、千葉教会の皆様にご心より感謝申し上げます。また、京葉地区の諸教会訪問として、貴重な学びをいただいた8つの教会にも、心より感謝申し上げます。

実習初日、おそらく京葉地区だからこそ叶う、千葉教会近隣の8つの諸教会訪問をさせていただきました。1つの教会での滞在時間は20分程度でしたが、同労者として学生を迎えて下さった牧師先生方の生の声とお証しは、決して生易しくない現場での働きを教えると共に、口にせずとも、その信仰と召しに生きる姿から、私たちの思いを増々主に向けさせ、背中を力強く押して下さる、そのような時となりました。それは、今回の実習に向けて「牧師の苦労や大変さも学んでほしい。」という石川安義先生の願いを聞いていたからこそ、胸に強く迫るものであったかもしれません。神学校でも祈りに覚えてきた京葉地区の教会ですが、今回の訪問を胸に、これからも続けて祈ってまいります。

後期の伝道実習は一週間という長期実習とな

りますが、学生それぞれ体調が支えられ、学びと奉仕に向かうことが許されたこと、主に感謝いたします。特に、今回の実習では、3度の夕食の献品がありました。学生のために時間をかけて整えて下さった食卓は、身体に気を遣いながらも疲労を忘れきれない、学生の心と体に元気を与えてくださいました。そこに溢れる愛と、惜しまず捧げて下さる千葉教会の心を目の当たりにしたとき、また、学生が出席させていただいた夜の祈禱会には、仕事を休んでまでして駆け付けて下さる兄弟の姿を知ったとき、聖書を学んでいると言いながら、自分の行いにどれだけの愛があっただろうか、また、どこまで自分を捨てて、この身を主に捧げられているのだろうかと思ひました。

学生の今後の働きのために、包み隠さず分かち合ってくださいました石川安義先生、恵先生のお証しは、学生にとって将来を見据える、実践的な生きた学びとなりました。再び学校に戻り、それぞれに与えられた残りの学びの時を、主と共に歩んでまいります。

最後に、今回、千葉教会でいただいた全ての交わりを覚えつつ、愛する主の御名を拝します。





伝道実習の証し

4年課程2年

堀口 和基
千葉BBC

主の御名を賛美いたします。今回、導きのなかで、母教会で一週間の伝道実習をさせていただいたことを感謝いたします。まず神様に感謝することは、一人も大きく体調を崩すことなく最後まで実習を終えることができたということです。学生一人一人が一週間で多くの学びを受けることができました。ここではその一部分を証しさせていただきます。

一年間に二回行われる伝道実習では、事前に毎回テーマを掲げて、そのテーマを覚えながら実習に伺わせていただいております。後期の伝道実習では、「建て上げられた教会を見る」というテーマが掲げられていました。そのなかで今回の伝道実習では千葉教会だけでなく、千葉地区にある八つの教会（市原・稲毛・検見川・佐倉・仁戸名・幕張・美浜・八千代）を訪問させていただく機会が与えられました。



仁戸名BBC

一日かけて八つの教会を訪問させていただいたために、一教会あたりの訪問時間がとても短い中ではありましたが、先生方から教会の歴史や現状、将来のビジョン等の様々な話を聞くことができました。全体を通して学んだことは、同じ千葉地区でも伝道の方法が教会によって全く違うというのを学ぶことができ、今後の参考にしていきたいと思いました。今回のために時間を捧げてくださった先生方に心から感謝いたします。

また土曜日の教会奉仕の時間では、木の剪定や花の植え替え等を千葉教会の



方と一緒に Rowe せていただきました。神学校では教会管理学という授業があり、教会を管理するという上で具体的なことを多く学ばせていただいております。今回の実習では、「教会の敷地内を管理する」ことについて実践的な学びも受けることができました。

そして今回の伝道実習では、日曜日午前の礼拝、午後の賛美集会、水曜の祈禱会、木曜の婦人会、合計四つの礼拝に参加させていただきました。多くの兄弟との交わりの機会が与えられ、また久しぶりの方や新来者の方も来ることができ感謝でした。

今回の実習のために多くの時間を捧げてくださった石川安義先生、恵先生、そして千葉教会の皆様心から感謝いたします。ありがとうございました。



伝道実習の証し

4年課程2年

井垣 勇基
調布BBC

貴い主の御名を賛美致します。

千葉バイブル・バプテスト教会でたくさんのご奉仕の機会、また学びの機会を頂きましたことを主に感謝すると共に、受け入れてくださった石川先生ご夫妻、教会の兄弟姉妹に心から感謝致します。

今回の実習で恵まれたことの一つは、千葉県内の教会訪問でした。実習の一日を利用して、全部で8軒の教会を訪問させていただきました。私自身は8軒とも伺わせていただくのは初めてでした。先生方のお話を通して、神様が千葉の地を愛しておられて、こんなにもたくさんの教会を建て上げてくださり、それぞれの教会が用いられて多くの方が救いに導かれているのだということを、示していただきました。神様のなされたみわざを「知る」のではなく「見る」ことの大切さを教えられた気がします。

また実習中に石川先生が学生一人一人と面談の時を持ってくださり、実習中に学んだことと、これからの歩みについて、祈りを共にして下さったことも今回の実習の大きな恵みでした。ただでさえお忙しいはずの先生が、その時間を一人一人と持ってくださったということに驚きと感動を覚えました。その時間の中では、実習中に行われた学び会の時には伺うことのできな

かったお話も聞くことができ、尚且つ献身者として、伝道者として生きていく上での大変重要なアドバイスや励ましもいただくことができました。この時間を通して私自身、個人的に勇気づけられました。そして、きっと石川先生はすべての神学生の兄弟姉妹に対してこのように接しておられたに違いないと確信致しました。

このことを通して、たましいを導く働きについて深く教えられました。働きの忙しさを盾にとって、一人一人と向き合うのを避けるのは簡単ですが、むしろ、そうした中で自分の時間や都合を後回しにしてまでも、一人一人と向き合うように努め、それぞれを理解しようと努力し、伝えるべきことを伝え、共に祈り続けていくのは、決して簡単なことではないと思いました。しかし、伝道者に求められるのは、そうしたことを自ら進んで行い、尚且つそうした兄弟姉妹との主にある時間を、主にあって心から喜び、楽しむことが、群れを導く働き人を支える重要な資質なのだとして強く示されました。

将来的にそのように歩んでいくためにも、普段からの主との交わり、教会での奉仕や、兄弟姉妹との交わりを主にあって心から享受する者でありたいです。





伝道実習の証し

4年課程3年

齋藤 光彦

佐倉BBC

教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。(エペソ1章23節)

主の御名を賛美致します。千葉教会の石川安義先生、恵先生、教会員の皆様、私たち神学生を伝道実習に受け入れていただきまして感謝申し上げます。

伝道実習の初めは、千葉県内の8教会を訪問致しました。市原教会では、渡部先生ご夫妻より伝道のお証し、伝道のことについて教えていただきました。仁戸名教会では、小林先生ご夫妻より伝道のお証し、地域の特徴を教えてくださいました。佐倉教会では、奥村先生より50周年誌より教会の歴史を教えてくださいました。八千代教会では、白石先生より伝道の証しと教会の歴史を教えてくださいました。稲毛教会では、バーリー先生より伝道のお証し、教会の近所との関りでの難しさなどを教えてくださいました。幕張教会では、上山先生より教会内を見せていただき、教会の歴史を教えてくださいました。検見川教会では、栢下先生ご夫妻よりお証しをうかがい教会内を見せていただきました。美浜教会では、内藤先生ご夫妻とご一緒に賛美をする時と伝道のお働きについて教えて

いただきました。まだ書ききれない多くのお恵みをいただきました。各教会の先生方、教会員の皆さま、私たち神学生をあたたく迎えてくださり感謝申し上げます。

千葉教会の石川先生より、学び会にて、イスラエルの歴史についての動画を見せていただきました。改めて再確認することの大切さを学びました。また、牧会の働きは、様々な事に対処していく必要があることを教えていただきました。神学生に対して個別面談を行っていただき、今後の働きについての示唆を頂くことができました。特別伝道集会案内のチラシ配布もさせていただきました。また、千葉教会の婦人の方々による韓国料理や食事のおもてなしをしてくださったことも感謝でした。水曜日の祈り会、木曜日の婦人集会にメッセージのご奉仕をさせていただき、御言葉からお恵みをいただきました。集われた皆様方との交わりをいただき多くの励ましをいただきました。祈り会では、ホワイトボードに祈りの課題が1か月分記入されているのを見て祈りが積まれていることを知ることができました。礼拝、賛美集会も恵みの時となりました。賛美集会では、多くの方々が主を賛美されている姿は神様の栄光があらわされていると思いました。



八千代BBC

稲毛BBC



幕張BBC



検見川BBC



美浜BBC



伝道実習スナッフ

聖書研究祈禱会 (教育館)



いのって出発



おいしい食事を感謝します



望月年先生と
(1期生)



神学校の思い出

名古屋聖書

バプテスト教会 牧師

上田 廣行



前号は、25期生の小林秀夫先生が書いておられますが、私は同期生です。神学校入学試験日、二人で受験しました。試験結果を踏まえて面接が行われました。担当教師より、「君たち二人は、相談しあって答案を書いたのではないか。」そう疑われてしまいました。英語の動詞変化の間違え方が、おかしな一致をしていたからですが、晴れて入学できました。

上級生からは歓迎をこめて質問がなされました。「神学校で何を学ぼうとしているのか？」どう答えたかは別として、卒業してからの働きのために学び訓練を受けることだけは確かでした。そうした背景には、3年後の働きへの道筋が決まっていたこと。当時、卒業生はすぐにでも開拓伝道や伝道所の責任を担うケースが多かったこと。あるいは、神学生の上級ともなれば、すでに伝道所などの担当や教会では説教奉仕を担う学生たちがいたからです。学生というよりも、献身者という方が強かったように思います。

日曜学校伝道のためには座学と苦手な視聴覚の授業を受けました。パペット作りで裁縫

をしました。伝道実習の時に、子ども集会や公園伝道で用いた記憶があります。なぜ神学校に入ってまで裁縫をしないといけないのかと、つぶやいていました。

教会史では「あなたの1週間の教会史を伺いましょう。」から始まりました。おのずと伝道を意識して一週を過ごすことになりました。ヨハネ黙示録が学べると期待して始まりましたが、新天新地までは、はるかに及びませんでした。聖書通論と概観は4人の先生から特徴ある学びを受けました。聖書66巻に向き合う体験でした。その基礎の上に、聖書解釈学などが積み重ねられ、やがて一書講読に向かった時、読み通し方に少しく変化ができました。先生がたの読み方には、気づきがたくさんありました。今日に至るまでの説教奉仕の上で、貴重な土台作りになっていることは、間違いありません。

チャペルでの説教は、神学生の特権でした。今も思い出します。K先生：再臨が明日来ても良いように備えると同時に、何十年先をも見据えて計画せよ。Y先生：主への奉仕をしたあと、忠実なしもべのように「なすべきことをただけです。」と言えるかどうか。S先生：伝道牧会の中で、大切にしてきたみ言葉は「わたしがひとりも失うことなく、ひとりひとりを終わりの日によみがえらせることです。」10名に及ぶ先生がたと過ごした3年間の学びの時、貴重な体験でした。

神学校 軽井沢キャンパス 冬から春へ



【予定】2019年

7/9 (火) 入学考査

9/2 (月) 入学式

編集後記

フェローシップ70周年を迎えています。JBBFの宣教の広がりは、神学校教育の継続を抜きには語れません。文字通り、命を削りながら教育に当たってこられた先生方に感謝すると共に、それに続く者でありたいと思います。

後期伝道実習はフェローシップ最初の教会である千葉教会で行われ、もう一つの最初の教会である幕張教会にも訪れる機会を得たことは学生達にとっても大きな恵みでした。

白石 公章